包括的な学校改善の視点：学校マネジメント

ＩＣＴの積極的利活用を推進する学校モデル

中核校	帯広市立広陽小学校	指定校	帯広市立啓西小学校、帯広市立西陵中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　子どもが主語の授業改革

・大妻女子大学の樺山敏郎教授が提唱するラーニングマウンテンを活用し、児童が見通しをもって課題解決に向かう授業改善に取り組むとともに、公開研究会や学習会の機会を活用することにより、取組の成果や課題を管内の学校と共有する。

・小学校２校において、児童に身に付けさせたいＩＣＴの活用に係るスキルについて協議し、統一したスキル表を作成することにより、系統性のある組織的な指導に取り組む。

【ラーニングマウンテンに関する学習会】

○ 自己有用感を高める生徒指導及び不登校に係る取組

・帯広市立西陵中学校で導入している心の健康観察アプリを参考に、小学校２校においても Google フォームやスプレッドシートによる「心の健康観察」を実施することにより、日常的に児童の実態を把握して個に応じた適切な支援を行う。

【心の健康観察】

○　Google Workspace の活用による業務改善

・職員室サイトやチャットの活用により、職員間の情報共有を即時的に行うことにより、諸会議や打合せ時間の削減につなげる。

・事務部会を積極的に開催し、日常的な課題や情報を共有するとともに、ドライブやチャット等を活用して中核校と指定校でデータを共有したり、「連携事務だより」を発行したりするなど、業務の効率化を推進する。

【職員室サイト】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・学校経営計画の作成について、中核校・指定校の校長で協議を行い、「９年間をつなぐ学び」を意識した目指す子ども像や指標、取組の方向性を明確に示すとともに、教職員の協働意識の向上を図った。

・１人１台端末の効果的な活用に係る共通理解を図るため、管理職が積極的に授業を参観し、授業におけるＩＣＴの活用状況を把握して、学校通信等で全教職員に周知した。

・教頭と事務職員が連携して職場の環境整備等を積極的に進めるとともに、中核校と指定校の事務職員の連携と業務改善を推進した。

〔専科教員の取組〕

・文部科学省 StuDX Style 等を参考にして、発見、追求、課題の解決の学習過程について、ＩＣＴを活用して児童と共有するとともに、育成する情報活用能力等の資質・能力を明確にした指導を継続した。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、効果的な取組事例を共有し、指定校において実践した結果について繰り返し地域協議会で交流し、取組の評価・改善を行った。

・帯広市内の学校教育指導の重点説明会において、ＩＣＴの積極的な利活用を推進する学校モデルとして、帯広市内の全学校に対して説明を行った。